

修学旅行生を対象とした農家民宿、食育、 農作業体験による都市と農村の交流

一体験学習と教育機能一

ながぬまちょう

長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会



田植え体験



農作業の間の休憩で、
昔の苦労話も・・・。



キュウリのツル這わせ体験



豆畑の雑草取り体験

地域の人々で保全・継承・開発してきた農村資源を、多くの人々に提供したいという思いから、平成 17 年に協議会を設立し、グリーン・ツーリズムの取組を開始した。

子ども達が農業とふれあい、農業に興味を持つ機会を作るため、農業体験や農家民宿を実施し、併せて食育の推進に取り組んでいる。



〔体験学習と教育〕

会員農家 118 戸が農業体験・農家民宿を実施しており、「地域と児童との心の通った交流・農村の多面的な役割の教育」を行うため、1 戸 4 名の宿泊を目安に受け入れを行い、近年は日帰り農業体験で 7 校 736 名（令和 4 年度）、農家民宿で 6 校 255 名（令和 5 年度）、5 校 184 名（令和 6 年度）となっている。農業体験メニューは一律に固定せず、受入農家が天候や時期等に合ったメニューを実施しているため、同じ学校でも受入農家毎に違うものとなっている。

〔地域社会の振興〕

修学旅行生等が農業体験や農家民宿を利用することによって、地元農畜産物の消費拡大が図られている。また、農産加工や温泉などの公共施設の利用は、土産品や温泉・観光施設等の利用拡大につながり地域活性化に大きく貢献している。平成 17 年には「どぶろく特区」認定による特産品加工販売も展開し、「どぶろく」は町の土産品として定着している。



トマトジュース作り



地域の特産品となった
“どぶろく”

※写真の無断転用を禁止します。

《長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会》

https://www.maoi-net.jp/kanko_nogyo/green_tourism/